

七生福祉園だより



第 270 号 令和 2 年 6 月 21 日

新年度を迎えて

東京都七生福祉園は、平成18年度から、社会福祉法人東京都社会福祉事業団が指定管理者として運営を担っております。今年度は、第五期の指定管理期間（2018年4月から2021年3月までの3年間）の最終年度にあたります。令和2年度の事業計画は、福祉型障害児入所施設では児童相談所の措置による入所が三分の二を占める状況、また、障害者支援施設では65歳以上の高齢者の方が三分の一を占め高齢・虚弱化が進んでいる状況などを踏まえて策定しました。

利用者の皆様一人ひとりの人格と個性を尊重し、個別の状況に応じた、よりきめ細かい支援を行うことにより、皆様が安全で安心して日常生活や社会生活を送ることができるよう、①利用者本位のサービスの徹底②セーフティネットとしての役割の強化③地域福祉の向上④地域生活移行等の推進⑤運営体制の充実・強化を基本方針としております。

新型コロナウイルス等、園を取り巻く環境は厳しいものがありますが、今後とも、運営体制の充実強化を図りながら、職員一丸となって努めてまいります。引き続き、皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

【園長・宮内和宏】

転入職員よりご挨拶（管理職）



3月31日付で園長（多田）、児童副園長（東金）、成人副園長（井鍋）が転出し、それぞれ後任の園長と副園長が着任しました。

園長 宮内 和宏

4月に着任しました宮内です。障害者福祉の仕事や施設は初めてですが、利用者の目線に立って取組んでいきたいと思っております。運営にあたっては、利用者、保護者、地域の方々とコミュニケーションを取りながら進め、笑顔で安心して生活できる施設を職員とともに目指してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

児童支援部門 副園長 田中 勝

初めまして、副園長田中です。これまで福祉保健医療に関わる仕事を28年間、その中で経験した福祉の現場は、知的障害者更生施設（現：障害者支援施設）、児童養護施設、精神保健福祉センター。これらはみな七生福祉園児童支援部門（福祉型障害児入所施設）と少なからぬ関係にあります。また少し古い話になりますが、大学時代に入ったボランティアサークルの活動先の一つがなんと“七生福祉園！”とても縁のあるこの「七生福祉園」を、職員とともにより良くしていきたい。子どもの最善の利益のため、心と身体を使います。

成人支援部門 副園長 宮崎 洋一

4月より成人支援部門の副園長に着任しました、宮崎と申します。八王子福祉園から異動してまいりました。着任後2か月が過ぎ、園の雰囲気にも少しずつ慣れてまいりました。今年度は、新型コロナウイルス感染症への対応でご利用者・ご家族の皆様には、ご不便やご心配をおかけしておりますが、様々な場面でのご協力に感謝申し上げます。まだまだ予断を許さない状況ではありますが、利用者の皆様に健康で、安全に、安心して笑顔あふれる充実した生活を送っていただけるよう全力を尽くしてまいりますのでよろしくお願いいたします。

新型コロナと熱中症

新型コロナウイルス感染拡大により、今年は例年以上に熱中症に気をつけなくてはならないと言われています。

◆マスク着用・外出自粛で熱中症リスクが上がる

春に外出自粛をしていたため「汗をかいていない」「運動をしていない」傾向にあり、暑熱順化（身体の機能が暑さに慣れて、汗をかいて体温を下げるなどの対処ができること）ができず、筋肉量も減っています。筋肉は身体に水分を貯めるもっとも大きな臓器のため、筋肉量が少ないということは保持できる水分量が少ないということ、すなわち、脱水になりやすいともいえます。常にマスクをつけて過ごしていることで、体内に熱がこもりやすくなってしまいます。常にマスクをしたままであれば、口渇の鈍化（マスク内の湿度が上がっていることで喉の渇きを感じづらくなる）傾向にあり、もともと喉の渇きに気づきにくい高齢者がますます気づきにくくなり、知らないうちに脱水が進み熱中症となってしまうリスクが高まるかもしれません。マスクを外してはいけないという思いがあり、気づかないうちに水分補給を避けてしまうことも脱水の一因になりえるでしょう。

◆脱水は免疫低下につながり、ウイルス感染のリスクを上げる

鼻から肺までの空気の通り道である気道にはウイルスや細菌などの異物が体内に侵入するのを抑える気道粘膜や絨毛があり、それらが潤っていることで機能が発揮できます。侵入してきた異物を痰として外部に運び出すために粘液が必要になるからです。脱水症になると、摂取した栄養素が造血細胞に届かずに、免疫機能が低下する可能性があります。熱中症に至らなくても、脱水はウイルス感染のリスクにつながります。

◆熱中症の症状と新型コロナ感染の症状は似ている

身体がベタつく、だるい倦怠感がある、頭がフラつく、発熱、頭痛などという症状を起こすのが熱中症です。実はこれらは新型コロナウイルス感染症の軽度の症状ともよく似ており、見分けるのは難しいかもしれません。だからこそ、熱中症になる環境や生活を避けておけば、これらの症状の原因が熱中症ではなく、新型コロナウイルス感染症ではという可能性を早期に疑えることにつながります。

◆熱中症予防のポイント¹

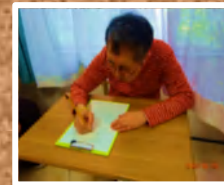
- ① 3食きちんと食べる。喉が渇いたなど感じたら水分摂取（多量のカフェイン摂取は控えましょう）
- ② 水分補給が十分できない時のために経口補水液を家族1人2本×3日分、常備
- ③ クーラーをすぐ点けられるよう調整しておき、暑いと感じる環境にいない
- ④ 換気をこまめにし、湿度も高くないようにする。快適な環境でよく睡眠をとる
- ⑤ 人混みを避けた散歩や室内での軽い運動を行う



（教えて！「かくれ脱水」委員会資料を参考）

日中の様子（ひいらぎ寮）
 新型コロナウイルスによる外出自粛のため、寮外などイベントが満足に出来ない中、ひいらぎ寮ではお弁当を注文してみんなで楽しむ昼食会を開催しました。皆様とても楽しみに当日を迎え、思い思いに注文したお弁当を嬉しそうに召し上がっていました。寮では今後も感染症に留意しつつ、皆様に喜んで頂けるイベントを企画していきます。

日中の様子（つばき寮）
 4月26日（日）、4月生まれの誕生日会を開催しました。いちごソースをかけたロールケーキとともに、楽しいひと時を過ごしました。また、利用者会議も開催され、「お弁当の日」に食べたいもののリクエストを募ったり、新型コロナウイルスであらゆることについて「手洗い・消毒・マスク着用」をきちんとし、予防していくことなどを確認しました。



日中の様子（高年3寮）
 新型コロナウイルスによる外出自粛のため、子どもたちは日常生活の大半を寮内で過ごすことを余儀なくされました。そんなある日、お昼の食事を弁当箱に詰め、寮の庭で食べてみました。「密」を避け、またシートでは向き合わずに食べる形としましたが、会話は弾み笑顔も多く、ピクニック気分を味わっていただけました。食後は時間を決めてサッカーや鬼ごっこをするなどして楽しく遊びました。

